

工 事 論 文

工 事 名 平成 20 年度中山間総合 (中山間・一般) 天竜地区

新切排水 2 号 4 工事

発 表 内 容 アンカー式石積 (ラップストーン工法) について

発 表 者 片 桐 建 設 株 式 会 社

片 桐 一 樹

静岡県土木施工管理技士会 天 竜 支 部

1. 工事概要

1) 工 事 名 平成 20 年度中山間総合 (中山間・一般)
天竜地区新切排水 2 号 4 工事

2) 工 事 箇 所 浜松市 天竜区 大栗安 地内

3) 発 注 者 静岡県西部農林事務所 農村整備課

4) 工 期 平成 20 年 10 月 15 日～平成 21 年 3 月 27 日

5) 請 負 金 額 ￥ 2 6 , 4 6 0 , 0 0 0

6) 施 工 者 片桐建設株式会社

7) 工 事 内 容

施 工 延 長 L= 208 m

土 工 1 式 構造物取壊 182 m² (既設石積)

アンカー式石積工 205 m² 石積工 183 m²

1 号～3 号急流工 各 1 箇所 1 号 2 号床版工 各 1 箇所

着手前



完成



※アンカー材とは（芯材＋亜鉛アルミ合金メッキ＋ポリエチレン樹脂被膜）を指す

3. 施工上での問題点

今回施工したラップストーン工法は、カタログ及び業者によるとどんな格好であれ自然石に穴を開けて石の面を気にすることなくスムーズに施工出来るし熟練された石工を必要としないであった。それに現場は狭小区間であり積算の歩掛りとは明らかに比べられない事が分かっていた。

しかし、経験上石積は石の面及び型次第で、次の石を布設しにくくなる為、削孔の際に熟練された石工に面を決めさせて作業を行った。その結果、やはりその成果は十分にありスムーズに施工が出来た。

4. 反省点

今回発表した工事は自分が担当した現場ではないが、例年にならない2.3月の降雨により水量が増した事、下流からの施工の為、一度に何班も作業が出来ない事により工事に多大な影響が出た。それにより工程管理が困難になり、途中では工期内に完成は不可能と思われた。しかし、自社作業員が一致団結し1月から3月は休日返上し少しでも早く完成をと頑張った所、ギリギリの所で検査前に完成し、検査監に『大変な現場だったと思うがよくやってくれた』とお褒めの言葉を頂いた。我が社始まって以来一番大変な現場であったが関係機関及び作業員各位、地元住民の協力により無事に完成することが出来た。